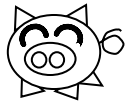


## 保険のはなし ～保険の機能と仕組みについて～

令和3年3月作成

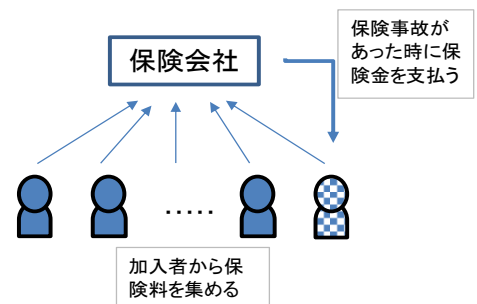


皆様の多くが何らかの保険に加入していると思います。しかし一口に保険と言ってもその種類は膨大であり、中には保険には加入しているけど、どんな保険に加入しているのかはよく知らないという人もいるのではないのでしょうか？そして、そもそも保険とはどういう仕組みで成り立っているのかを理解している人は意外と少ないと思います。今回はそんな保険の機能と仕組みについて簡単に考えてみたいと思います。

多くの人が①何かあった時（保険事故が発生した時）に、②保険金を受け取るために、③保険料を支払っている、という事は理解していると思います。では、なぜ保険料を支払うと保険金を受け取れるのでしょうか？簡単なケースで考えてみたいと思います。

毎年、50人のメンバーで登山を楽しむグループがいます。しかし、毎年一人程度が怪我をしてしまい、治療費に5万円くらいかかってしまいます。怪我をした上に5万円の出費はかなりの痛手です。怪我をする確率は2%程度です。そこで、参加者全員から治療費5万円の2%に相当する1,000円を事前に参加者から集めることにし、怪我をした人が出た場合にはその集めたお金から治療費を支出することにしました。

つまり、自分が怪我をするかもしれないけど、万が一怪我をした場合の5万円の治療費の負担は大きい。しかし事前に1,000円の負担金で万が一怪我をした時の費用が賄えるのであれば、そのほうが個人個人の負担は少なくて済むという相互扶助の考え方です。勿論、保険会社が販売する保険商品は、事務費用や人件費・会社の利益なども考慮しなければならないため、今回の例であれば1,000円以上の負担が必要とはなりますが、それは保険会社の経営の話となりますので、今回は詳細の説明を割愛します。



上記の例はあくまで登山という限定的な立場で起こりうる危険に備えるものですが、世間には様々なリスクがあります。病気や交通事故による治療費の負担又は死亡、旅行中の盗難被害、運動時の怪我、火災による被害……挙げるときりがありません。しかし、人それぞれの生活状況に応じて生じるリスクも必要な備えも異なります。そこで、それぞれのリスクに応じた保険商品が存在するのです。例えば、自動車を持っていない人には自動車保険は必要ありませんが、自転車に乗る人であれば、自転車保険には加入しておいたほうが良いと思います。最近では自転車による事故であっても1億円近い賠償金の支払いを命じた裁判例もあります。スポーツが趣味の人であれば傷害保険に入ったほうが良いかもしれませんが、運動をしない人には不要です。

すなわち、保険の加入に際して重要なことは、被保険者およびその関係者が、どのようなリスクにどの程度さらされていて、実際にそのリスクが発生したときにどの程度の保証が必要になるのかを分析することが必要です。また、重要なのがそのリスクに備えるためにどの程度の費用をかけられるのかという点も重要です。保証される額が大きければ大きいほうが良いですが、保証が大きくなると保険料も高額になります。